Fukushima Association of Corporate Executives
福島経済同友会 会報
2015.4
No.6
春号

□最近の活動状況

【新年懇談会】

―1月29日(木)ホテル辰巳屋―

須貝俊二・株式会社IHI航空宇宙事業本部生産センター副所長(兼)相馬事業所長を講師としてお招きしての新年懇談会を開催、「航空機用エンジンの将来とIHIの取り組み」と題してお話をいただきました。

当日は49名の会員が出席し、講演会の後に開かれた懇談会において親睦を深めました。

以下、須貝所長の講演録を掲載しました。

○IHIの概要

創業は嘉永6年(1853年)。徳川斉昭公が黒船来航に対抗して日本の国力を保つ目的で、現在の東京都墨田区の隅田川河口にあった石川島に作った造船所が始まりです。造船には、ボイラー・原子力・蒸気タービン・橋梁・クレーンといった各種プラントにつながるすべての技術が詰まっています。我々の事業は、船の中の蒸気タービンの技術を空を飛ぶ航空機ガスタービンエンジンへ発展させてきたというのが経緯になります。

航空宇宙事業本部の概要ですが、売上は、平成25年に4,000億を超えました。事業の内容としては航空機エンジンが85%になります。この他に宇宙開発として、有名なところでは一昨年打ち上げされたイプシロンロケットや、H2Aロケットに付いているターボポンプも含まれています。

○航空産業について

航空機エンジンの国内市場規模は平成24年度では3,800億、IHIはその中の78%を占めています。

翻って、世界の市場規模は6兆円から7兆円と言われています。そのうち、アメリカのGE(ゼネラル・エレクトリック)社が約30%、イギリスのロールスロイス社が約20%、そしてもう一つアメリカのプラット・アンド・ホイットニー社が約20%で、約7割がこの3社で占められています。この他にフランスのスネクマが約10%あります。IHIの世界のシェアは4%～5%です。またドイツにMTUという会社があり、アメリカとイギリスとフランスとドイツと日本で世界のエンジンの殆どが作られているという市場になります。

アメリカの航空機の売上高は、機体やエンジン等

右　講師　須貝俊二 氏

下　会場風景

を含め約12兆2,300億円で、日本は約1兆1,600億円とアメリカの約10分の1です。一方、日本の自動車産業の市場規模は約40兆円ですが、航空機は1.2兆円の規模であり、日本国内産業に占める割合はまだまだ僅かです。しかし、世界に目を向ければ、12兆円まで拡張できる可能性があります。

現在、約2万機の民間航空機が世界中を飛んでいますが、20年後には約3万7,000機になると言われています。過去20年間のトレンドをみても年率5%で成長しており、IHIの航空エンジンの売り上げも創業以来右肩上がりの成長をしてきていることを考えると、民間航空機の数が増えるとともに、IHIの今後も同様の成長が期待できるだろうと予測しています。

次に、航空機エンジン産業の特徴を4つあげると、①高付加価値産業である。重量当たりの単価が非常に高価です。②産業のすそ野が広い。部品点数が多く、一つのエンジンを構成する約3万点の部品を支える産業が必要です。③高い技術波及効果がある。高性能なエンジンを作るためには、軽量でかつ高温、高圧の使用環境に耐える部品を作ることが必要で、常にその時代時代の最高の技術を率先して取り入れていかなければ競争に勝つことはできません。④防衛産業の基盤である。日本の国防を担う防衛省の航空機エンジンを支えている産業です。

○相馬事業所について

我々の工場は、田無市の工場が手狭になったため移転することになり、平成10年に相馬第一工場が、平成18年には相馬第二工場が相馬への移転を完了し、相馬市で操業を開始しました。敷地面積は37万4千平米あり、東京ドーム8個分の広さです。

相馬市を選定した理由ですが、まず第一に東京か

ら300km圏内であり遠くなく、工場の近くに常磐高速道路のインターチェンジが開設される予定があり、物流面でも有利であったことが挙げられます。今年3月1日には常磐高速道路が全線開通し、当初期待した物流ルートが実現することになります。次に、東北地方でありながら、浜通りは雪が少なく気候が温暖であるということ。そして、近くに複数の工業系の学校があり、非常に勤勉で良質な労働力を得やすいということです。以上3つの理由で田無市から相馬市に移転をしてきました。

○震災について

東日本大震災では、幸い我々の工場は浜から約10km離れており、標高約40mあるため津波の被害は受けずに済みましたが、機械、インフラはかなり大きな被害を受けました。震災から約2か月後に一部操業を再開しましたが、工場全体の復旧には7月末までかかり、秋以降にようやくフル生産体制となりました。

○IHIの挑戦

航空機エンジンの燃費は技術開発を重ねたおかげで、現在では1960年代と比べて50%以上良くなっています。航空機エンジンには、燃費性能を向上させるために軽量かつ高温、高圧力での使用環境に耐えられるチタン合金やニッケル合金が多く使われていますが、近年のエンジンには鉄系の材料は殆ど使われていません。このように航空機エンジンはその時代の最先端の材料が常に使われています。

次世代に向けての革新的ものづくりにも積極的に取り組んでいます。国のご指導、助成を頂きながら、新素材である複合材を使用したファンケース・動翼・静翼などのものづくり、高速切削技術、高精度高速鍛造技術、セラミックス系の新素材の開発にも挑戦し競争力を高めていきたいと考えています。

○最後に

IHIが航空機エンジンの事業を行ってきた約60年の間、常にその時代その時代の最先端の材料･加工技術･機械設備を取り入れ、ものづくりをしてまいりました。これからも、航空機エンジンが多くの方々の命をお預かりしているということを常に肝に銘じ、結果のみならず一つ一つの工程にも責任を持って、皆様に安心してお使い頂けるものづくりを続けてまいります。また、エンジンの性能向上に向けた軽量新素材、複合材への挑戦、そして革新的な機械加工を中心としたものづくりに挑戦し続けてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いします。　（文責　事務局）

【東日本大震災追悼シンポジウム】
【被災地視察会】

―3月10日（火）陸前高田市他―
―3月11日（水）盛岡市―

今年度で4回目を迎える東日本大震災追悼シンポジウムが3月11日に盛岡市で開催されました。

シンポジウムに先立ち被災地視察会が10日に行われました。津波によって深刻な被害を受けた陸前高田市や大船渡市の地元経営者との懇談や被災地の現状を視察し、復興の進捗状況と今後の課題等を再確認しました。

11日に開催されたシンポジウムには全国の経済同友会会員約250人が参加し、「今後の復興に向けた官民の役割・連携について」と題した基調セッション、追悼式典、テーマ別の分科会が行われました。基調セッションでは福島から浅倉代表幹事がパネリストとして登壇し、また3つの分科会のうち「原子力災害からの福島復興に向けて」の分科会では、阿部代表幹事がパネリストとして登壇しました。

浅倉代表（右側）

阿部代表（右側）

奇跡の一本松

【IHI相馬工場見学会】

―3月17日（火）―

新年懇談会にて講演いただいた須貝俊二・株式会社IHI航空宇宙事業本部生産センター副所長（兼）相馬事業所長のご厚意により相馬工場の見学会を開催しました。当日は17名が参加しました。

始めに、須貝所長よりIHI相馬工場の概要についてスライドを使用して説明があり、その後普段見ることのできない工場の中を見学しました。質疑応答のあと、渡部代表幹事より「福島復興のためにはものづくりが重要となるため、今後も福島のものづくりをリードしていただきたい」と感謝の言葉を述べられました。

質疑応答の様子

須貝所長より展示品の説明を受ける参加者

須貝所長と参加者全員で記念写真

□事務局だより

平成27年1月～3月に変更のありました会員を紹介します。（敬称略）

会員交代		
		平成27年3月交代 中尾根（なかおね）　康宏（やすひろ） 日本銀行　福島支店 支店長

（平成27年4月1日現在　会員数77名）

引続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。

編集日誌

◇２年ぶりにコンサートへ行ってきました！！始まる前のドキドキ感は何度味わっても最高！！普段は出さないような大きな声とともに、自分の中に溜まったモノを発散できてスッキリしました！！

◇４月に入り、真新しいスーツに身を包み緊張した面持ちのフレッシャーズを見かけると、〇〇年前の若かったあの頃を思い出します。右も左も分からなかった私を温かくご指導して下さった方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも一日一日を大切に頑張っていこうと思います。（今野）

□会員企業紹介 【第6回　大和自動車交通株式会社】

今回は当会の会計幹事を務めていただいている、大和自動車交通株式会社の大村社長にお話をお伺いしました。4月から始まりました「ふくしまデスティネーションキャンペーン（以下、ふくしまDC）」へ向けての取り組みなど様々なお話を伺うことが出来ました。

○会社名の由来について

代表取締役社長　大村雅恵 氏

昭和41年に創業して、来年50周年を迎えます。

会社を経営していくうえで社員全員の「和」が最も重要であり、その「和」を中心として「大きく」発展していくことを願って「大和」と名付けました。タクシー業から始まりましたが、現在は貸切バス事業や国内旅行業務、そしてタクシーを利用するお客様からの要望があり訪問介護事業も行っています。

○お客様の声に耳を傾けて・・・

タクシーを利用される方はご高齢の方が多く、以前、お客様より「介護保険の適用を受けるから、これからは大和さんのタクシーが使えない」と言われ「それなら介護サービスを始めよう」と乗務員から提案があり、乗務員自ら介護ヘルパーの資格を取得し介護事業を立ち上げました。現在では乗降介助を始め、身体介護、生活援助を24時間体制でサポートしています。この事業を開始して10年ほど経ちますが、課題も見えてきましたのでそれをクリアし今後の高齢化社会に少しでも貢献できればと思っています。

○震災から4年

震災により、新幹線や電車やバスといった公共交通機関が一時ストップしてしまいました。その際タクシーは営業を継続できたため、皆様にタクシーが公共交通の一翼を担っているということを再認識していただけたと思います。

また、県外から現地視察のため訪れる方がタクシーを利用するという想定外の需要もありましたが、地域の経済活動が止まったことにより利用者は減りました。しかし去年あたりから県内外からの旅行依頼が増え始め、少しずつではありますが福島も前に進んでいるように感じます。

○ふくしまDCに向けて

観光客が駅から降りて最初に乗るタクシーで福島の印象が決まるといっても過言ではありません。ですから、福島県が主催している交通事業者向けのおもてなし研修に積極的に乗務員を参加させております。また、当社独自の取り組みとして2年ほど前から実施している名所・旧跡を巡る観光ドライバー研修が、今回お役に立つことを願っています。これから、花見山のシーズンに入ります。花見山まで料金定額のサービスを提供しておりますので、山の麓まで行けるタクシーの利用者が増えることを期待しています。

○安全で最高品質のサービスを

常日頃、「安全運行」と「最高品質の接客サービス」を従業員全員に徹底しています。安全運行のために、車の安全点検と乗務員の健康チェックを出庫前後に欠かさず行っています。また、タクシーに乗車されたお客様に快適な「ひととき」と「空間」を提供するため、車内を清潔に保ち、気持ちの良い挨拶、そしてお客様のニーズを乗務員が察知し応対できるよう心掛けています。充実した接客サービスを維持し続けることが重要だと考えています。

○タクシーの可能性

電車やバスと違い、タクシーは「利用者の戸口から戸口まで」送迎しますので、高齢者の通院や買い物などに適した交通手段だと思います。今後、地方自治体とも話し合いタクシーが担える役割をしっかり検証し、公共サービスの一環としてデマンド交通に、更に緊急避難時にタクシーを利用してもらえるよう業界を挙げて取り組んで参ります。

住　　所	〒960－8117　福島市入江町13－22
設　　立	1966年7月
従業員数	102名
T　E　L	024－534－6181
U　R　L	http://f-daiwa.com/